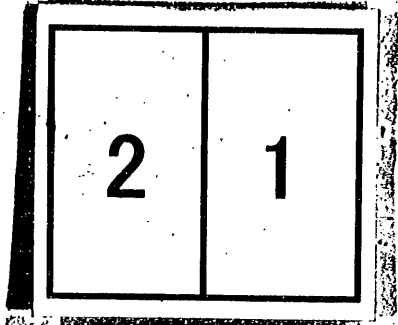


通信開始並試験、件
三

1296

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

去路

町不念々情移を嘆い

切而令散費者臨時南

洋^防隊司令者付き

海軍大庫工医山口敏治

氏も当學所製の「サビオル

の割引他段無線電報を

以下通知有る旨申越

指三いへとも当使より

同司令者へ無線電

報発信の便宜無之い

に付き貴者有る同氏

に尤記の電文をば発信

に取ら討以福下取に

最作より

電文

ミホシココオク
見本五個送ル後〇一

見本五個送ル後〇一

1297
1298

最作小

電文

ミホシ五コスタ
見本五個送ル後〇二
ニツキ七二録

宛右

南洋トラック島

臨時南洋防備隊

司令部

海軍大軍医

山口敏治

右に最作小

田一

京都帝国大学

医学科大学解剖学教室

冊周者五

海軍者

無線電信課

10

軍令部

軍務局

供覽

第三班

加藤海軍大臣閣下

敬請

奉啟者 下益御健勝被為八月如
信高 於別記事項 船搭 無線電
為 考 不取 敢 借 貴 覽
具 第二課 二十八日

第二課 二十八日 大臣 野田健治

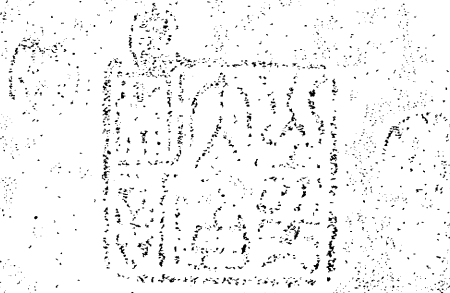
野田健治

遞信省

七月一日

1299

通信省経理課印刷



1300

アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp/>

三月廿三日正午ヨリ零時三十分迄傍受

ニエーシヤーシ州ニエーアーク教電ハウ井ルソシ大統領ハ

左ノ書翰ヲ當州ノ政黨首領連ニ送レリ

何レノ黨派モ自己ニ盡スト云フ考ヲ持タズニ人道

ニ盡ス考ヲ持テ……此ノ問題デ試験セラル

ヘシ、是レ正當ナルヤ將又各人ニ齊シク利益ナル

ヤハ個人及團體ニ関セズ高尚ニシテ正當ナル最モ

尊ムヘキ理想ヲ含ムハ戰場ニ在ル者ハ或ハ新ラシ

キ思想ヲ以テ歸來セシ然ルニ……

要求スル政治上ノ文句ニ止マラハ……後米ノ

黨派ノ主張ハ其ノ特色ヲ失ヒ只一般ノ選擧民ニ

何等共フル處ナケン

桑港發電「テーパー」(?)アイルランドノ有名ナル政
治家オコナナー當地ニ着彼曰ク絶對的勝利ヲ
得サレバ戦争カ今後二年ノ涉ルモ可ナリ……
我等ハ「フレンチヤレ」ノ武斷政策ヲ破壊スルカ又ハ
我等ノ子孫ニ此ノ事業ヲ遺スヘキカ

倫敦廿二日發電「廿日迄ノ一周間内ニ一千六百噸以
上ノ英船十一隻ハ撃沈セラレタリ十一隻ハ攻撃ニ遭
フ、英國人ノ到着ニ。九八出帆ニ三一七「サ」エリック
議會ニ於テ曰ク一月迄ノ一年間ニ撃沈セラレタル船舶
ノ噸數ハ六百萬噸ナリ敵ハ九百五十萬噸ヲ撃沈
シタリト稱ス

モスコワニ廿二日發電ニ駐露米國大使曰ク余ハ最後
迄露國ニ踏留マルヘシ米國人ハ露國ヲ獨逸ニ
渡ス様ナ場合ニ露國國民ハ如何ニナルカト云フ懸
念ヲ抱キツツアリ

午後七時ヨリ八時迄ノ停受

法律ハ各船舶及局ニ送ラレツツアリ
送付ヲ受ケタル分以上ニ入用ノ向ハ海軍省ヘ申
出ツレハ送付スヘシ此法律ハ各人ノ權利ヲ保護
シ部下ノ士官及下士卒ニ傳ヘヨ

(海軍)

華盛頓發電ホノルル殖民官憲宛ニ局ノ聞知スルト

エロニ依ルハ海軍省ハ貴港ニ於ケル蘭船オフィイル
船ヲ使用シツツアリト左記ハ三月十七日各港ニ發送
セラシタル電報ノ説明ナリ、……、國際法ノ下ニ緊
急軍事上ノ必要ニ基キ十九日(水曜)以降米國各
港ニ在ル和蘭船舶ヲ使用スルエトテ決定セラルヘシ
決定ノ上ハ海軍ニ於テ船舶附属器具積荷ヲ管
理スヘシ殖民局長負ハ海軍將校ト共ニ船舶ニ至リ
左記訓令ニ遵ヒ船舶ノ上下級船員ヲ解散ス
ヘシ、……、解散ナシタル船員ハ海軍ノ宿舎トシ
取扱ヒ其ノ給料ヲ支拂ヒ法律ノ下ニ各自ノ權
利ヲ尊重スヘシ彼等ノシテ和蘭ニ歸國ヲ欲スルト
キハ輸送ノ方法出来次第歸國セシムヘシ又外國ニ
渡航ヲ希望スルモノニ對シテハ殖民規則十條ニ

後ヒ之ヲ許スルニシテ、同令ニ對シテハ迅速ニ且鄭重
ニ回答スルニ若海軍區管ノ司令官ハ海軍省ヨリ詳
細ナル訓令ニ接シ居ルヲ以テ殖民官ニ協力ニ且必要ノ
解船ヲ供給スルニ解散シタル船員ハ直ニ上陸セシメ船ハ
海軍官憲ノ手ニ移スルニ解散船員ニハ政府ノ費用
ニテ送還手續完了迄相當宿所ヲ給シ賄フ為スルニ
但船ニ一時止マリ上陸ヲ欲セサルモノ

(サンゲートブーヨリパールハーバー)

布達巴ールハ一日リ布律賓群島ヨリ

無線電報

五月廿六日午前十時三十分ヨリ午前十時四十分
船中ヨリ傳受シタルモノ

ワシントン電ハ楊軍ノ攻勢ハ多ク鋭ク

然ラ激戦ハ必然起ルニ戰地ヨリ到來スル戰報ハ固

シモ英軍ハ防戦スル勢ハ故ニ多大ノ損害ヲ受ク

アルニ云フ所ニ且其ノ損害ハ敵ニ取リ或ハ重ク

果テ爾レバ知レバ敵ハ長巨離射撃ヲ重ク

陸軍省週報ニ就テ依リ英軍戰線對テ

攻撃スルニシテ維持セムカ為其ノ高司令

部ニ無

鐵砲行... 九時三十分より九時三十分迄海

軍通信傍受者来... 報に依り米國兵

英軍の援助... 西

香港電に臨時飛隊組合委員... 當地に到着... 大至急

船舶建造... 協議... 該委員

衆國造船所... 職... 年十月... 萬人

二十七八人... 太平洋沿岸各造船所

日本海軍の人... 歡迎... 日本人會... 軍人

為運動會... 開催... 日本人會... 運人

在劇場... 案内... 馬

對... 絶体的... 且無條

件的... 阻止... 及揚遠... 地利

活動... 各衆國人... 阻止... 公團状... 以

新... 状... 以

軍令部別

軍務局

供



今朝 独逸 ナウエニ 電信所へ送信停止
大正七年二月廿七
海軍省副官宛

電報

船橋無線電信所長

二月廿七日

軍務局長

第二課 六枚



海軍

海録目

1308

Transocean Press No 191.

Second Official 26th officially reported
operation in East take planned course.

From other war theatres nothing new.

Transocean Press No 186 fourth special
twenty sixth continuation speech of German
Chancellor in Reichstag February 25th.

Military action in east however has
produced success going far beyond
original intended and by me just
designated aim. One thing is already
known to gentlemen from communications
made by Foreign Secretary that Footschi

has declared himself ready by wireless message to which soon written confirmation followed to take up again ~~to~~ broken off peace negotiations.

We on our side have immediately answered by our peace conditions in form of an ultimatum.

Yesterday now - and that is very agreeable communication which I have to make to you you - information has arrived that Petersburg Government accepts our peace conditions and has sent representatives for further negotiations to Brest Litovsk.

German delegates have therefore started

on their journey thither yesterday evening.

Possibly details may yet have to be discussed but principal matter has been attained. Will for peace has been expressly made known by Russian side.

Our conditions are accepted conclusion of peace must follow in very short time.

Never perhaps in history has the word of Aristotle that for sake of peace we must prepare for war received such a brilliant confirmation. In order to secure fruits of our peace with Ukraine our army command has drawn the sword;

Peace with Russia will be fortunate result.

We shall not let the joy over this not be disturbed over by the continual silly and exciting wireless messages sent out over the world.

Peace negotiations with Roumania have begun yesterday in Bukarest in presence of Foreign Secretary. It seemed necessary that he should be present there on first days on which foundations are laid soon however he is to be take himself to Brestlitowsk. In negotiations with Roumania we are to remember that not we alone

Have a part therein and have obligation to maintain just interests of our faithful allies Austro-Hungary, Bulgaria and Turkey and to seek for a compromise between possibly diverging wishes. That will possibly cause difficulties but with good will on all sides these difficulties can be overcome. But also in reference to Roumania the principle be controlling for us that we must make and wish to make friends of the future of the states with which we now make peace supported by success of our arms.

If I speak a word in this connection concerning Poland for which lately entente and also Mr. Wilson seem especially to interest themselves it is to call (indistinct) to fact that land as is well known has been freed from crushing dependence on Czaristic Russia by United forces of Germany and Austro-Hungary with intention to call into existence an independent state which in unrestrained development of its national culture should become at same time a supporting column for peace of Europe.

The political problem in narrower sense
question what constitution new state should
receive could not as can be understood
be immediately decided upon and is still
now in stage of being thoroughly discussed
between three lands concerned.

外日印通商手続

参考

軍務局

市價、
 船橋より此
 三〇km 運賃
 三〇日毎の
 年七時 感
 五明晴の
 受信に
 得る
 山丘
 山丘



小牧



海

軍



1316

215

機密第一七九號

海軍

軍務局長
第二課長
第一課長
軍務局長
吉賀

大正七年三月十四日

船政局長宛

一、船政海軍無線電信所修理、障之件

現状報告、故、日無線電信所、本年四月一日、約二個月、稼運
以テ、検査修理、為、工事、着手、ト、初期、尚、送信、勢力、減
退、趣、有、士、作、處、時、向、一、年、係、上、此、如、料、正、事、此、案、成、ル、ト、差
控、シ、メ、之、度、希、望、シ、ハ、休、テ、至、急、電、況、調査、上、何、分、ノ、
意見、承、知、致、後、即、回、示、ヲ、得、度

吉賀 傳入

七月月内無線電信所現状報告

(長山 柄)



第五號ノ六

軍務局

第三號 出

大正七年三月十八日

山本軍務局長

船橋無線電信局長宛

船橋西軍甘原電信局送信感電ノ開件

本件開件ノ在布生電報ノ別紙中要約ノ報告有之ニ付

右通電ノ

(別紙 参照)

出布電報中送電信現狀報告中 ○船橋云々ノ一部摘記

(明正印刷)



船橋無線電信局 第三號 出 局記

1318

軍務局長

第二課長

局長

常務艦長 森本義

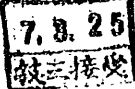
大正七年二月軍艦常務無線電信現狀報告

第一課

常務艦長 森本義



以下十音



軍令部

第三班

技術本部

無線電信機其他現狀報告

電 信 機	電 報 機	電 報 機	電 報 機	電 報 機		電 報 機		電 報 機	電 報 機	
				電 報 機	電 報 機	電 報 機	電 報 機		電 報 機	電 報 機
一、二年式三号送信機	二、若譽及信機二年式二号	三、一號機球探波器	四、三六式送信機	五、若譽及信機四号二号	前月中	前月中	前月中	前月中	前月中	前月中
以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備	以上完備
五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台	五〇〇台
...
...

1319

前
電信
局
及
東
區

布哇島・秋ケル通信状態一統
 布哇島東部ハ公群島中ノ各島嶼電信所・對シ通信状態最モ不
 ナリ之レ地勢ノ然ラレハル所・シテ先月二十七日ヒ・海ヨリ水
 ノル・港ハ致航ノ途次布哇島ノ南東沿岸航行中屢々暴風起ル
 信所ヲ舟ハレモ廢セバ左島ノ最南端ヲ迂回シテ六アア島・向針
 スルヤ此所始メテ左島ノ廢アリタリ(此島南約ニ石澤)今島北東
 沿岸・面セル日ヨリ港ノ如クハ莫殊港及ワヒアア(英・オアア島アリ)
 ノ南東信所ヲ去ル儘カ・ニ百八十哩内外ナレハ合港也。然レ西所トノ
 通信ハ殆ド不可能ナリト雖モレシタルニ及先月合地寄港中
 ノ故障・生スル。昼間ハ前部西島ノ送信ハ感度アルモ頗ル微弱。
 レラ別機完全ニ受信スルコト能ハサルヲ以テ電力ノ増勢ヲ要
 求スルモ両島ハ常ニ一定ノ電勢カラ以テ一級通信・從事スル
 カ故。之・意セズ又夜間・アリテハ日没三十分後頃ヨリ翌朝七
 時頃迄ノ間ハ感度不充合ナカラ種カ。受信スルコトヲ得ルモ微々
 タル空電タリトモ未だ發センカ忽チ通信不可能。終ル故ニ合地
 寄港ノ能ハレテ無線通信ヲ要スルモノハ豫メ此等ノ状態。
 備レ考慮ヲ要スルモノアリト認ム

船橋、由ら

將來修理改造ヲ要スル
其化費

戦時無線電信室ノ主たる改造・初ヲ

一、通信装置ノ新設

現・合室ハ何等通信装置ノ設備ナク、以テ之ヲ實用ニ遣ヒレメ

ントスルハ、合所ナリ、船橋及平野無線電信室・至ル電話及

仲戸管ノ新設ヲ要ス

一、迎風装置ノ改造

左室ノ迎風装置ハ倉庫・至ル給電管ヨリ分岐セル三吋至ノ

鉄管一何ヤルノニ依テ、他ニ連テナル排気管ノ設ケ且ツ給

電管ニ改造シテ其空ヲ増大スルヲ要ス

定員現

定員六名 一、電高電一、二、電高電二、一、水着電三

員比較

現員五名 一、電高電一、二、電高電一、二、水着電一、三、水着電一

部内通信ノ状況

一、部内通信トシテハ依然船橋海軍無線電信所ノ送信ヲ受信スル

ノニシテ、他ニ無線所ノ送信ヲ受信セズ

一、船橋無線電信所ノ送信ノ受信感度ハ音色ト相俟テ頗ル良好ニ

シテ午後五時三十分ヨリ午前四時三十分(何レモ中央標準時)ニ至ル時

西ニ於テハ確實ニ度信スルコトヲ得マレテ前四時三十分(中火標準時)以後
 ハ漸次感度減衰シ遂ニ極小トナリテ日布兩地共ニ口中ニ至ラバ
 全ク受信スルコト能ハズ殊ニホノル、流由若シクハラアア場
 近接セル地点ニ於テハ大小規模ノ各局受信機ノタノ彼狀
 況信シ果敢長ニシテ其長大ナリト云ハ強勢振動ノ感應ノタ
 ノ合離スルコト最モ困難ニシテ妨害ヲ蒙ルコト甚クシカフル
 午前一時(中火標準時)ヨリ午前五時頃ニ至ル約五時間ハゴッヘット
 針ホリナメ局間連續受信ヲ行フコト例トセリ然レバ漸次同動ト
 連絡スルニ、然レ合席ニ容易ニシテ右噴集附近ニ至ラバ明カニ
 合席ナルコトヲ得ヘシ
 別紙受信成績表ヲ附シ参考トス

部外通信ノ状況

一、米海軍局ノ送信機、現今米海軍ノ使用レツアル送信機ハ殆ド不
 衰減式ニシテ別紙裏トシテ衰減式ヲ併用シテアルモノ如シ
 二、本艦・艦ヲ或更セシ不衰減使用局ヲ左ニ列記シ改良
 並ニ相互受信局ヲ表示ス

前日
部外
雜電
所通
見
一
成
一
為
內
中

島名	所在地	呼出番号	波長	受信番号
Cavite	菲律賓	NPO	5000	NPM, NPN
Tutuila	サモア群島	NPU	5000	NPM
Pearl harbor	ハワイ群島	NPM	4500 7000	NPL, NPC NPO, NPU, NPN
S. Diego California	カリフォルニア州	NPL	5000	NPM, NPA
Gerbe Bucho. California	同上	NPG	5000	NPC
Puget Sound	北カリフォルニア州	NPC	5000	NPM, NPA, NPG, NPR
Cordova, Alaska	アラスカ	NPA	6000	NPC, NPE, NPL, NPK
Dutch Harbor	同上	NPR	5000	NPL, NPK
New Orleans	ルイジアナ	NAT	5000	NAA(7-4-1-1)
Point Arguelle	北カリフォルニア州	NPK	4500	NPR, NPA
Guam	ガム群島	NPN	4500	NPO, NPM

1323

一、使用波長 右ノ表減電ノ通信波長ハ概ホ五千米突附近ヲ使用シ
 且ツ之ヲ最小波長トセルモノ、如レ然レバ他ノ數値ノ大波長ヲ使
 用レテアリテハ不備備付ノ受信機ニ於テ最大受信波長・同調
 セルムルニ南休憩トシテ不足ク感スルコト屢々ナリ
 二、送信勢力 電方面ニ於テ各局ノ感度ヲ比較スルニハハルハルハ
 ヲ除クノ外殆ド合ハナル大勢力ノモノヲ有スガ如レハハルハルハ
 局ノ送信高ナルカ故ニ他ト比較スルハズ(遠近句共ニ電ノ其ノ
 受信感度ニ於テ甲乙ノ表ハレザルハ)到達距離ノ餘詰尚緯々
 タルヲ明カナリ電ヲ本機ヲハイナレ沖左治中同地電信局
 莫一就ニ試ミ、ハハルハルハルハルノ電ノ勢リヲ同ヤタルニ
 概ハ七百五十基五ナリト答エタリ其言信カバカラズ
 ト要ニ果セラフ然ラバ其規模ノ宏大ナルハ驚ニ感ス
 ハレ然レバ概シテ優越セル機具ヲ保有スルハ幾ナク
 其送信機日那起一及ツヤ之レ吾人ノ研究ヲ要スル
 事項ナリト思考ス
 五、送信機 以上ノ表減ノ各局ハ殆ド四字(母字)暗号ノ信文ヲ

送信レツ、アリテ普通文ハ殆ド受信スルコトナキカ如レ其
 速度ハ一介間的九十五字ヲ最上限度ト認ム一級速度ノ
 遅延ナルハ前々ニ報告レタルカ如ク可及的遅延ヲ避
 クルノ策ヨリ出サタル結果ト思考ス而シテ現行ノ機
 能ヲ行フノ傾向アリ此ハ送信機ニ於ケル中今電線ノ
 作働不良ナルカ爲メナラン此弊ヲハールハ一バーレ
 ニ最モ多シ其他可出方法並ニ送信方法等一級速
 信法ト異ナル所ナシ只對付局ヲ中ト出スニ
 先々送信機調整及ビ電線ノ作働ヲ調整スルモノ
 介間ト(一)符ヲ連続スルコトアリ又特アリテハ約二
 十介間ノ長キニ亘リテ同符ヲ連続送信スルヲ或
 此レ或ハ對付局受信器ヲ調整セシムルニテラザルカ

備考

第一頁前月中通信回数、欄ニ於テ政文信文ノ發受
信ヲ行ヒタルハ、真珠軍港無線電信所ノ、又
和文ハ、船橋無線電信所發信ノ、モ、ナリ

(終)

大正七年二月中船橋無線電信所送信受信状態成績(常態)

日時	船位	直臣青	音名	感度	空電	漏信	記事	信文
二月一日 午前二時 右	ラハイナ	三二四。	良	強	乙	乙	受信容易	露國道線ハナリ ソノモト
午前六時 右	右	右	良	並	乙	乙	受信容易	トリスク先七直信度
二月二日 午前二時 右	右	右	良	強	乙	乙	受信容易	日本政府ハ露國 五六々
午前六時 右	右	右	良	並	丙	乙	受信容易	トリスク先暗号一 通信度
午前八時 右	右	右	良	強	丙	乙	受信容易	
二月三日 午前二時 右	右	右	良	強	乙	乙	受信容易	
午前六時 右	右	右	良	強	丙	乙	受信容易	
二月四日 午前六時 右	右	右	良	強	乙	乙	受信容易	獨逸各地ニ於ケル トリスク先一連信度
午前八時 右	右	右	良	強	乙	乙	受信容易	

一月五日	一月六日	一月七日	一月八日	一月九日	一月十日	一月十一日	一月十二日	一月十三日	一月十四日	一月十五日	一月十六日	一月十七日
右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強
乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙
乙	強					強				強		強
漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之	漢書卷之
二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於	二日伯林之於

午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右	午前七時。右
右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左
右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左	左
良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良
並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並	並
甲	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	乙	丙	丙	丙	丙
強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強	強
コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機	コソント機
運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船	運送船

二月五日 午前十一時	二月五日 午前八時	二月五日 午前六時	二月五日 午前四時	二月五日 午前二時	二月五日 午前一時	二月五日 午前十一時	二月五日 午前九時	二月五日 午前七時	二月五日 午前五時	二月五日 午前三時	二月五日 午前一時	二月五日 午前十一時
右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左
右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	右 左
良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良	良
強	並	並	強	並	強	並	強	並	並	並	強	強
乙	丙	丙	丙	丙	乙	甲	甲	甲	丙	丙	乙	乙
右 左	右 左	右 左	右 左	右 左	後儀容易	右 左	高不明	高不明	高不明	右 左	右 左	右 左
上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍	上ノノ先ニ通傍

			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		
			青一 二人	青一 二人	青一 二人	青一 二人		

常磐對南洋各無線電信所間通信試驗成績(常磐)

送信部

月日	番号	開始時刻	送信部	波長	電流	電圧	備考
二月一日	三	終了時刻 10.15	コハラカンテリヤ 「兄はまにニレワ	1000	55	55	北 竹田重之
二月一日	四		カンテリヤ	750	55	55	一 杉山若人
二月一日	五		カンテリヤ	750	55	55	二 中国善吉
二月一日	六		コハラカンテリヤ 「カンテリヤ	750	55	55	一 堀田時春
二月一日	七		カンテリヤ	750	55	55	一 板村市郎
二月一日	八		ヤレヨノカンテリヤ	750	55	55	北 竹田重之
二月一日	九		コハラカンテリヤ 「ヤレヨノカンテリヤ	750	55	55	一 杉山若人
二月一日	十		ヤレヨノカンテリヤ	750	55	55	一 中国善吉
二月一日	十一		コハラカンテリヤ 「カンテリヤ	750	55	55	二 堀田時春

ナリレテ次テ送信ヲ行ハズ

備考 九日ヨリ十七日ニ至ル期間ハ本艦ホノル、横橋ニ繫留中

九日	八日	七日	六日	五日	四日	三日	二日	一日	九日
一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン	カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン カキヨノカンセン
右	右	右	右	右	右	右	右	右	右
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
水	水	水	水	水	水	水	水	水	水
板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎	板村市郎

受信部

月日	番号	時刻	信	次	班長	態度	室配	種類	混信	復信	使用機	当番者氏名
一月一日		11:00	右左			右	西	コソント送 コソント送 コソント送	コソント送	球探機	永竹田重之	
一月二日			右左			右	西	コソント送			一菅 杉山 善人	
一月三日			右左			右	西	コソント送			二菅 中国 善吉	
一月四日			右左			右	西	コソント送			二菅 繩田 時春	
一月五日			右左			右	西	コソント送			二菅 板村 市郎	
一月六日			右左			右	西	コソント送			三永 竹田 重之	
一月七日			右左			右	西	コソント送			一菅 杉山 善人	
一月八日			右左			右	西	コソント送			二菅 中国 善吉	
一月九日			右左			右	西	コソント送			二菅 繩田 時春	
一月十日			右左			右	西	コソント送			二永 板村 市郎	
一月十一日			右左			右	西	コソント送			三永 竹田 重之	

善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善
右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左
毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛	毛
乙	乙	乙	乙	甲	甲	甲	乙	甲	乙	乙	乙	乙
右左	信二 コニト道	延保 ハルハ少一	毛	右左	右左	常高 ノ	毛	空 電 島	右左	右左	延保 コニト道	延保 ハルハ少一
右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左	右左
善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善
善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善	善

三日	三日	三日	三日
右左	右左	右左	右左
右	右	右	右
左	左	左	左
右	右	右	右
右左	右左	右左	右左
右	右	右	右
右	右	右	右

経過意見

一、送信、本機裝備ノ送信機ハ二年式ニシテ送信ニ係リ振動變

壓器ノ捲回間ニ起ル刷丸状放電甚カシク理想ノ勢力ヲ發揮

セシムルコト極メテ困難ナリ加コルニ當期前ハ當面ノ天候概シ

テ不良ニシテモムナク勢力ヲ減殺セラレツテアルヲ遺憾トス尚

最良ノ努力ヲ以テ送信ニ盡スベシ

二、受信、本機驗開始以來受信ノ経過ツ見ルニ結果極メテ不

良ニシテホダ嘗テ南洋電信所ノ送信ヲ感シタルコトナレ共

通達區南タルヲ稀々遠隔セリト云ハ勿カ中間ニ存在セル陸

地も甚か僅少ノモノニテ微弱ナル送信者タリトモ感シ得
 ヤキニ反レテ平想ニ達セザルハ最モ遺憾トスル所ナリ往年
 翻テ南洋方面各電信所ノ送信ヲ傍受レタル成績ヲ見
 ルニマルトトトラツクニ兩所ノ送信數田當方面ニ感應シ
 タルヲ記録セリ思フニマルトト電信所ノ勢力ハ到底ト
 ラツクニ電信所ノ比ニテラカランモ時期ヲ定メ同所ノ送信
 ヲモ本試験ニ加フルトツ得バ一參考資料タラント思フ
 考ス

(終)

軍務局



軍務第五七號

ノ九

大正第九

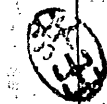
大正七年四月一日

大島北特設海軍艦隊

海

軍

海軍省御中



船橋常磐間通信試験成績表送付ノ件

三月分船橋常磐間通信試験成績表二葉送付

候也

第二課



送

軍務局接受

五月二日



1339

海軍

溪信ノ部 (三月分)

父島北特設海軍

無

〆

1340

別

軍務局

陸軍部

海軍

大正七年五月一日

海軍省御中

舩橋常盤間通信試験成績表送付ノ件

四月分舩橋常盤間通信試験成績表貳葉送付

候也


第二課

(終)

九七號

1342

毎									魚シ	送信ノ部	(四月分)
											(終)

										受信ノ部 (四月分)	毎々 (終)	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---------------	-----------	---

地方建設局
 様

父望第一二三號

海軍

大正七年六月一日

海軍省 御中

軍務局長受

七月十日

船橋常盤間通信試験成績表送付件

五月分船橋常盤間通信試験成績表貳葉送付

候也

(終)

軍務局 濟

第二課

軍令部 別

軍務第五七號

一四

1345



父望第一二三

海軍

父望第一二三

送信ノ部 (五月分)

無シ

(終)

1346

公署第一二三號

海軍

父島駐留隊海軍記録

受信部

(五月分)

無し

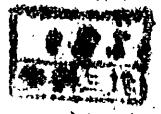
(終)

1347

gr. 2 + Teachers and pupils should be in mind
 that they all are the members of a home. Teachers should
 do for their pupils what parents would do for their children
 and pupils should behave toward teachers as they
 would do their parents.

三一九 三 三二 左記 三〇〇 精良好 乙 ナシ 精難 四三式 水樽 哲
 ヘウコクセウノダンキズイホウモンハジツツナルガゴドクヘウ
 シトシテハコノサイダンシコクムソウリタランコトヲセウウシソ
 ノジタイノゲンシツチトリテダシパニサイゴノトドメヲササンタメ
 ナルベシ

備考、常磐ノ感更ニナシ、二十六年午前三時ノ船橋ハ連呼セシメ
 ニテ五分ニシテ送信ヲ止メ函ビ送信ヲ初メ五分ニテ止メタリ。



水守隊機密第三ノ別

船橋常磐通信試験報告(大正七年七月中)

ホナ。特設無線電信所長 成田富三郎

7. 10. 18

軍務局接収

受信ノ部

月日	番號	時刻	信文	波長	電度	電種	電況	電使	電用	當事者氏名
七ニ	ナシ	前	九	記	四	高	好	西	ナシ	男
										四武
										小幡
										哲口

艦政局

技術本部

軍令

進

二

第一班

ミルラウ

カイガイキトウザンスルモノスタナカラスシゼンウランニサンカセザルフリヨモラウシト

ニウツリトミウラリイトウニアリルフリヨハンノマドクヤクシテノウゲウニシウニタ

ハドヤツスルカカキハニトウズルカアルイウエウルクエウラスロツトシテヒガシ

レタルモンノホリヨコウカンインノテニヨリイブブシカシタルモヨウアリシカラザ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

タンドクコウツトウツクニアリタルドラウホリヨノスウハヤクニオマントセウセラ

七、六 ナシ 前 九記 四〇〇 良高 乙 ナシ 稍難 四三式 池田文三郎
 マイヅルニテケンゾウチウノトウクタクカンタニカゼワイヨイヨキタルニヒセン
 一〇ジニ〇フンシンスイシキヲキヨコウスルニケツセリ

七、三 ニ〇 前 九記 四〇〇 良高 丙 ナシ 男 四三式 小幡 哲
 レンブウダシワイタルトコロニライテコウセイヲカイシシベイダシワプリスタダ
 ウシユセリバイブダシワイマナラシダシケケイゾクタクユウ

七、三〇 ナシ 前 九記 四〇〇 良並 乙 ナシ 固難 四三式 池田文三郎

*a certain neutral traveller from the
 Jotom emperie says: "no one in germany
 speak of victory. they always talk*

of food the mind of the civilian
population, has become ~~seems~~
secondary to efforts to get
enough to eat."

備考

常磐ノ感更ニナシ

七月九日午前三時ハ松橋ハ佐世保ト交信中ニテ発信セザリキ

(終)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

洋

頁